

---

# 憤怒の使い魔

うおう

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

憤怒の使い魔

### 【Nコード】

N5302Z

### 【作者名】

うおう

### 【あらすじ】

憤怒の能力を持った主人公がゼロの使い魔の世界で大暴れする予定の二次創作小説です。

## プロローグ（前書き）

思いつきで書きました。

駄文ですが感想をもらえると嬉しいです。

## プロローグ

単刀直入に言おう俺は転生者だ。

前世で神の手違いで殺された俺はテンプレ的に能力を貰いゼロの使い魔という小説の中に転生した。

ここまではみなさん聞いたことがある展開だ。

だが、しかし！！転生したのは平民だった！！！！

ありえねーだろ！！！！普通貴族だろ！！そこは！！！！！！

貴族の長男とかになって内政チートしてみたり！！！！オリジナル魔法作ったり！！！！！！

はあ、一応平民メイジだから、魔法使えるけど親父はいねえし母さんはつい最近病気で死んじゃったし。

5才！！5才！！！！で親無しの孤児だよ！！！！！！

どうしてこうなった・・・

はあまだ能力あるからいいほうか・・・

後に、憤怒のXANXUS<sup>ザンザス</sup>と呼ばれるものの物語が始まった。

あゝ腹減ったゝゝゝ

## 狩りと修行とオーク狩り

むしゃむしゃ・・・不味い。

やはりネズミの肉は旨くないか。

現在俺は食事中だ。

食べているものは今朝見つけたネズミの肉だ。

もぐもぐゴクンつと完食！！！！

さて腹も膨れたし情報を整理しよう・・・

現在地・ゲルマニア南部の森

持ち物・ナイフ（家の財産）

ボロイ服三着

使い込まれたワンド（父親の忘れ物）

干し肉<sup>ネズミ</sup>

ボンゴレリング・大空（転生特典）

newヴァリアーリング・大空（転生特典）

憤怒のリング・嵐（転生特典）

二丁拳銃・死ぬ気弾（転生特典）

ボックス  
匣八個（転生特典）

所持金 10エキュー

俺の転生特典は家庭教師ヒットマンリボンのキャラクター、X A N Z U S の力の憤怒の炎

憤怒の炎は死ぬ気の炎の亜種のような物で圧倒的な破壊力を持っている。

それでもって自由自在に使えるので戦闘では役に立つだろう。

だがそのおかげで俺は火メイジである。

他にはブラッド・オブ・ボンゴレの超直感だ。これは役に立つ、

なぜなら何処に敵が居てもなんとなく分かるからだ。

後は鋼の錬金術師に出てくるホムンクルス<sup>ラース</sup>憤怒の能力究極の眼だ。

だがウロボロスの紋章がない、あつたら異端審問会だからな。

これはとても良い、風竜の速さも見切れるぐらいだ。

あと追加オプションとして精霊が見えた。

スゲー、フヨフヨしている、癒される。

あとボンゴリングとnewヴァリアーリングと憤怒のリングとXANXUSが使っている、

二丁拳銃と匣<sup>ボックス</sup>を八個を転生特典として貰った。

後ついでに精神力と回復力を大目にしてもらい、成長限界をなくしてもらった。

ボンゴリングとnewヴァリアーリングは大空属性で、

憤怒のリングは嵐属性だ。

二丁拳銃はメンテナンスフリーでいくら撃っても死ぬ気弾が減らないようになっている。

匣<sup>ボックス</sup>は八個で、大空属性が四個、嵐属性が四個になっている。

そして俺の外見は丸つきりXANXUSだ！！！！眉間にしわ寄せまくっているよ！！

睨むと威圧感がヤバイよ！！！！前に本気で睨んだら竜騎士の竜が怯えたよ！！！！！！



あと表情筋が硬い！！笑った時にはいい年の大人がマジ震えてた！！！！

そしてうまくしゃべれない！！なぜだつて？！！XANXUSだからさ！！！！

まあ・・だいたいこんなものだ、後肝心の魔法はそんなに悪くはない。

五歳にして火のラインメイジで、風と水はドットメイジだ。

土は全く使えない。ゴーレムが使えない（涙）。

杖ではなく三つのリングと契約している。

コモンマジックはだいたい使える、フライはあまり使えないが・・・

まあこんな物だ、まだ五歳だからこんな物だがこれからドンドン修行していけば強くなるはずだ！！

よし！！今から修行だ！！！！

- - - - -  
- - - - - 修行風景 - - - - -  
- - - - -

「いくぜ、ファイアボール！！！！からのフレイムボール！！！！」

「ファイアボール……二十連打あああああ……！！！！！！！！」

「フレイムボール……三十連打あああああああああ！  
！！！！！！！！！！！！！！！！」

「そうだ！！憤怒の炎を足したら・・・今度は憤怒の炎をプラスしてみよう」

「ファイアラーズ!!!!!!」

「ギアアア……炎が……燃え移った……!」

「コンデンゼーション!!!コンデンゼーション!!!.....  
ふうやっとなまった。」

「あつ火傷！！ヒーリング！！ヒーリング！！！！！！」

「今度は風だ！ー！ウインド！ー！ウインド！ー！エアハンマー！ー！ー！」

「うおおおおお零地点突破、改、！！！！！！」

[illegible]

三年後

## 結果 火 ラインからトライアングルへ

水  
ドットからラインへ

土まるで反応がないようだ・・・

風  
ドットからラインへ

使える魔法 火 ファイアボール 連射可能、だが曲げること  
は出来ない。

火火  
フレイムボール  
二十個ぐらいしか創れない。

火火  
ファイアウォール  
高さ四メートル幅三メートル

ルぐらいの壁

火火火 フレイムブラスト 腕から火炎放射、威力は高

い  
が  
あ  
ま  
り  
撃  
て  
な  
い

火火風 フレイムウインド 熱風、かなり熱い

火火水 ホットスチーム 熱い蒸気を出す、逃走用

水 コンデンセーション 意外と多く水が集まる

水水 ヒーリング 深い傷でも治る

風  
ウインド  
突風を起こせる、あまり威

力は無い

風風 エアハンマー  
オーク鬼も吹き飛ばせる。

風風 エアスピーアー 岩に穴が開く。

能力 憤怒の炎 銃に炎を込めることが出来るようになった。零地点突破‘改’を習得した。

超直感 風の空間把握と合わせりより正確になった。  
究極の眼 見切りがさらに鋭くなった、精霊も大目にみえてきた。

リング どちらのリングにも炎が出せるようになった。  
匣 まだ使ってない。

混合技 ファイアラーズ 憤怒の炎を混ぜて撃ったファイアボール。

着弾するととてもない爆発が起きる  
消費する魔力はファイアボールと同じ

フレイムラーズ ファイアラーズの強化版  
さらに爆発が強くなる  
消費する魔力はフレイムボールと同じ

こんな物さ。三年でこれくらいになれば良い方だろう。

精神力も三年前と比べて数十倍に増えた、成長強化もあつたのだからか。

それに比例して回復力も上がった、一時間寝れば精神力が半分は回復する程度に。

あと詠唱時間も大幅に削った、今はトライアングルスペルを二秒で詠唱可能だ。

俺は今からオーク鬼を殺しに行く、殺しになれる特訓だ。

オーク鬼達は悠然と昼寝をしていた。

だがその時、オーク鬼達に向かって魔法が撃たれた。

ドカン！……と大爆発を起こしオーク鬼の半分以上が消し飛び、

運よく火傷を負わなかった一部のオーク鬼達は自分たちに向かって魔法を撃つたものにこん棒で攻撃を仕掛けた。

だがオーク鬼たちの攻撃は当たらなかった。

「消し飛べ怒りの暴発」  
スコッピオ・ディーラ

ズガガガガガガガガガガガン!!!!!!!!!!!!!!

魔法を撃った者の拳銃から強力な憤怒の炎が連射され超極太レーザーとなりオーク鬼に襲いかかった。

レーザーは周囲を薙ぎ払いその線上にいたオーク鬼達は断末魔の声も出ずこの世から消え去った。

その後この周辺の森からオーク鬼が消えた。

狩りと修行とオーク狩り（後書き）

主人公が使う魔法を募集しています。（土は無理です）

## 浮遊島アルビオンヘレッツゴ

前回オーク鬼の群れを消した俺はその後帰った。

そして俺は家の荷物を纏めて生まれ育った村を後にした。

それまでは修行のため家にいたがオーク鬼を倒したのもうここで学ぶことはないと思い、

俺は村を出て行った。

現在俺はアルビオンに向かうフネのあるラ・ロシユールに居る。

俺はアルビオンに住む予定だ。

アルビオンは原作に近くなっていかないとイベントがあまりない、なので目立たない。

そしてあそこは地上より遥かに高い場所なので空気も薄く修行するのにはもってこいの場所だ。

目立たずに強くなるにはぴったりの場所だ。

え？なぜ目立ちたくないかだって？それはごたごたに巻き来れないようにするためだ。

ごたごたとは原作イベントの事である、

なぜ他の転生者はあのような面倒くさいことをわざわざやってるの



だろうか？

激しく疑問に思う。

どうせ女の子にもてようとするためにそのようなことをするのだろう。

まったく破廉恥極まりない。

さて話は逸れたが俺は今八歳だ。

原作開始つまり平賀才人がルイズなんかちゃらにこのハルゲニアに召喚されるまで、

あと十六年ある、つまり俺はこの期間を利用し誰にも邪魔をされずに悠々自適に過ごす！！

これが俺の二度目の人生目標である。

俺の今の所持金は3エキューばっちなしかな、なのでアルビオン行きのフネには乗れない。

だから俺はしばらくこの町で修行をしつつ金を貯める予定だ。

目標は100エキュー、頑張って溜めるか。

- - -  
- - - 修行風景 - - -  
- - -

さて今日はXANXUSの技の特訓でもやるか。

今のところは怒りの暴発しか使えないからな、他の技を使えるようにしないとな。  
スコッピオ・ディーラ

マルテロー・ディ・フィアンマ  
たしか炎の鉄槌はもつと連射の速さを上げないとダメっぱいからな。  
良し試しにやってみるか。

マルテロー・ディ・フィアンマ  
『炎の鉄槌』

ズガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガ  
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

・・・まだダメだな、もっと連射の速度を早くしないと上手くないかないな。

いまだに扇のような形で撃てないしな。

ボツチョーロ・ディ・フィアンマ  
それじゃ今度は炎の薙かな。







そして爺はぎっくり腰でダウンかよ!!!!!!!!!! ツカエネーヨ!!!!!!!!!!

ドットって！ドットって何！！！！貴族なんだからライン以上はイケヨ！！

俺はトライアングルだぞ！！！お前ら平民よりヨワイノカヨ！！！！！！！！

こうなら自棄じゃああああ！！！！！！！！！！

[illegible]

空賊たちは油断していた。

フネにはろくなメイジがいなく頼りのオールド・オスマンもぎっくり腰で倒れている。

そして自分たちにはトライアングルクラスのメイジが数名いる。

空賊にとってはまさに鴨が葱をしょってくるというものだった。

そして彼らが今フネの大砲を壊し、フネの横に自分たちのフネを着け、船内に乗り込もうとした時、

「スコッピオ・ディーラ  
怒りの暴発！！！！！！」

**ズガガガガガガガガガガガガガン!!!!!!!!!!!!!!**

銃声（？）がし、超極太のレーザーが先に行った奴らを消し炭にしたのだ。

それが原因で空賊たちは混乱した、なんせその先遣隊にはトライアングルのメイジがいたからだ。

そして混乱している空賊たちに向こうのフネから魔法が撃たれた。

それは着弾すると凄まじい爆発が起こり次々と空賊たちは炎に焼かれていった。

しかもそれは絶え間なく降ってくるのでフネにいたメイジ達総出で魔法を撃ち落とそうとした。

残った平民の空賊たちは消火活動をしフネの被害を少しでも減らそうとした。

そして火が粗方消された後残っていたメイジたちの精神力もほぼ尽きていた。

空賊たちはこれ以上の被害を恐れ逃げ出そうとした、だがそれは出来なかった。

フネはもう落ちかけていたのだ。

船内には穴が開きマストはズタボロになっておりもう航海を続けることが出来なくなっていた。

そして空賊たちは諦め投降しようと白旗を上げてきた。





## 浮遊島アリビオンヘレッツゴウ（後書き）

後悔はしていません。

引き続きアイディアを募集しています。

## オールド・オスマンとの接触

前回俺は不甲斐ない貴族オールド・オスマン（クス）と一糞爺の代わりに空賊を討伐した。

うん、もう塵一つ残さずに。

その後フネに戻って行ったら皆から恐怖の視線を浴びせられたよ。

貴族なんかは俺を見た瞬間泡吹いて気絶したよ。

そして爺にはなんか興味を持ったような目で見られたよ。

まったく空賊を力っ消しただけなのになんでこのようなことになったのだろうか。

ああ始祖ブリミル様よ、どうか迷える子羊を救って下さいませ・・・

なんてブリミル教なんて信じてないけど（笑）

だってさあ前うちの村にいた神父なんかはろくに祈りもしないで酒ばっか飲んでる奴だったからな。

普通そんなところを見たら誰だって信仰心なくすでしょ？

オスマン「そこのお主、名をなんという。

（この者はいつたい何者なんじゃ？使っていた魔法はスクウェア級の火力じゃが。）」

おつと爺に声を掛けられた、もうぎっくり腰は良いのかよ。

XAN「……………ザンザスXANXUS……………」

何故か俺は喋る時、寡黙っぽくなるんだけどこれは何かの補正か？  
てか俺喋った時に睨みつけちまったよ、生意気だと思われたか？

オスマン「ザンザスかい名じゃの、ところで先ほどのあれはお前さんがやったのか？

（なんちゅう目をしてるんじゃない、一瞬殺気が見えたぞ……）  
」

ちっ、ばれていやがる、この爺ぎっくり腰で引きこもっていたのに何処で見てたんだ？

XAN「……………俺だったらどうする……………」

オスマン「別に何もせぬと言っておるのに、見たところお前さん貴族ではなさそうじゃが……」

（この格好から見ると貴族ではないだろう、では平民のメイジか？）  
「

XAN「貴族しか魔法が使えないというわけでもない、俺は平民だ。  
」

俺が平民だ、と言った瞬間周りの貴族たちが威張りだしたな。

あゝほんとウザい、こいつら何様のつもりだっていうんだ、ドクトのくせして。

オスマン「平民じゃったか、でもさっきの魔法は何じゃったのだろうかの。

俺は平民がこれほどまでに魔法を使えるとは思えんのにやがな。

（ちよつと挑発でもしてみようかい、しかし本当に平民じやったとはのう

世界にはこれほどの逸材が眠っておるのかの？）  
「

XAN「父親が貴族だったただけだ、貴族だった父は気まぐれに母を犯し孕ませ俺が生まれた。

その後から何も連絡がないから捨てられたのだろう。  
」

あの父親、一発ぶん殴ってやりてえぜ。

オスマン「ではお主は誰の師事も受けてこれほどまでのメイジになったのかの？」

（いったい誰の師事を受けここまで育ったのじやろうか、これほどまでのメイジを育てたものならば魔法学院にも欲しいわい。）  
「

XAN「俺に師はいねえ、ほぼ独学だな。」

俺がそう言った時、周りがざわついた、そんなに珍しいか？爺もなんか唸って考え込んでいるし。

オスマン「お主は年は幾つじゃの？」

（これほどのメイジが誰からも教えを受けずここまでとは・・・）  
「

爺声が震えてるぞ？

XAN「八歳だが、文句あるか？ついでにランクはトライアングルだ。」

オスマン「八歳！！！！トライアングルじゃと！！！！！！

（八歳？！！！！八歳でトライアングルじゃと！！！！！！それも独学で！！！！

なんちゅう才能の持ち主じゃ、八歳でトライアングルと  
いうのも稀なのに・・・」

おろ？みんな啞然としている、爺なんかは口をあけてボー然として  
いるし。

そんなにすごくないだろ別に、ただサバイバルしてりゃあ上がるし。

オスマン「お主、儂の養子にならんか？」

XAN「は？」

オリ魔法を作ろう！ 高速機動魔法

前回オスマンと話し合った結果何故か俺の息子になれえ！的なことを言われた。

そのことで話し合った結果、十六歳、十六歳になったらオスマンの義子になることが決まった。

何故十六歳かというと俺を魔法学院に入らせたいからだそうだ。

俺としては別にいらなくてもいいがオスマンがどうしても言うていたので入ろうと思う。

だから後八年間で俺は一応火と風のスクエアメイジになろうと思う。

後XANXUSの技も全て覚えておかなければ、前々回の決別の一撃、イオコルボ・ダッデ

は偶然成功したし、あの後もう一回やっただけで失敗したからさあ。

後高速機動や、  
ボックス  
匣も試してないしね。

ついでにもう一つの零地点突破を使えるようにしようかな？

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

- - - - -

現在俺はアルビオンのサウスゴータ地方の南部にある森の奥深くの場所にいる。

何故ここかって？此処は精霊が多く住み魔獣や亜人が豊富にいるのだ、そして食料や水も豊富にある。

修行するのには絶好の場所だ、それで尚且つ人目がほぼ無い。

これで俺は目立たずに強くなれるということなのだ。

それじゃ今日はオリ魔法を作ってみたいと思う。

今までの魔法だと火力が弱い、射程が短い、詠唱時間が長いという  
いろあるので、

憤怒の炎を元にして新しい魔法を作ろうと思う。

まずは高スピードで動ける魔法を開発しよう。

フライはダメだ、あれはトロい。

そしてフライは飛んでる時に魔法が使えない、使えたとしても威力が  
カスィい。

高スピードで尚且つ攻撃もできる魔法……………

戦闘機…………飛行…………高速移動…………ポケモン…………ポケモン  
!!!!



ポケモンみたくな何かを纏って動けばいいのではないか?!!

アクアジェットみたいに水を纏いながらの高速移動・・・・・・・・

これはいける!!!!!!後は何を纏うかだが・・・・・・・・これは憤怒の炎か?

それではダメだな、あれでは俺も焼ける・・・・魔法でもダメだな・・・・

魔法・・・・始祖ブリミル・・・・ブリミル教・・・・聖戦・・・・エルフ・・・・先住魔法・・・・精霊魔法!!

そうか精霊かつ!!!!!!精霊ならば加護を受ければ焼けなくて済む!!!!!!

だかしかし精霊とどうやって契約すれば・・・・・・・・そういえば俺にはあれがある!!!!!!

発動ツツ!!!!!!ウロボロス・アイ究極の眼!!!!!!

フハハハハハハハハ!!!!!!これがあれば精霊が見える!!!!!!イコール契約できる!!!!!!

精霊が見えれば精霊魔法が使えると誰かが言っていたような気がする!!!!!!

よし!!!!さっそく契約ダアア!!!!!!

.  
.  
. .  
. . .  
. . .  
. . .  
. . .  
. . .

デキねーよ!!!

あいつ等なんだよ！！ふわふわ浮きやがって！！！！

こつちの話は聞きもしない！！浮いているだけ！！！！

クソツタエエ エエ エエ エエ エエ エエ エエ エエ エエ  
!!

ズガガッ ガガッ ガガガッ ガガガガガッ .....!!!!!!

チュドー————ン!!!!!!!!!!ドガー——————  
 ーン!!!!!!!!!!

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

- - - - -

俺は精霊と契約できず怒った。

そして怒りにまかせて暴れまわった結果……

精霊が言う事を聞いた、怪我の功名だぜ、やったね！

やっぱり知能が低い奴らには肉体言語やO H A N A S H Iが効くようだ。

そして新しく出来た魔法の名は『鳳凰天駆』。

この魔法は、火火風＋精霊魔法・火のスクエアスperlだ。

これは炎を身に纏い空を高速飛行する魔法だ、威力は当たったら竜でも撃墜できそうな威力だった。

そして飛んでる時でも高威力の魔法を発動できる……火と風限定だけど……

さらに憤怒の炎をプラスすることにより威力、機動力が共に跳ね上がる。

この名の由来は飛んだ時に鳳凰っぽくなり空を駆け巡ったから『鳳凰天駆』にした。

これで機動力に関してはいう事なしだろう。

次は守りの魔法でも作るか。

オリ魔法を作ろう！～高速機動魔法～（後書き）

‘トッシー’様意見を授けてくれてありがとうございます。  
これからもオリ魔法や感想をお待ちしています。

オリ魔法を作ろう！〜広範囲殲滅魔法〜

前回俺は高速機動魔法『鳳凰天駆』を作った。

そして今回俺は広範囲殲滅魔法を創ろうと思う。

広範囲殲滅魔法。

それは大規模なもので一瞬にして大勢の敵にダメージを与える魔法。

このハルゲニアには広範囲殲滅魔法は数えるほどしかない。

そして数少ない広範囲殲滅魔法もスクエアスペルだったり、虚無魔法だったりする。

広範囲殲滅魔法は詠唱時間がとても長いし消費魔力もとても多い。

俺はまず詠唱時間の問題をクリアすることにした。

詠唱とはルーン文字を唱えること、そして系統魔法には絶対必要。

これは高度な呪文ほど詠唱時間が長くなっていく・・・

・ この詠唱を短くしてしまうと魔法の効果が薄くなってしまう・・・

なので詠唱を使わない精霊魔法にしようとする。

なぜなら俺は精霊が見え精霊魔法が使えるからである！

だが火の精霊と風の精霊としか契約が出来ないのだが・

と言うか周りには火の精霊以外寄りつかないし、偶に来るのが風の精霊だし……

そして俺の周りにいる火の精霊たちの他にいつも怒ったような顔を  
している炎の精霊がいる。

何だろうこいつら、火の精霊の亜種か？それにしても怖い顔しているな。

それはもう憤怒の形相で……憤怒？……

まさか、ね。まさかね。一回試してみようっと……

Orz手から精霊が出ていた

リボーンのXANXUSは憤怒の炎を出す直前手が光る、これは俺も該当する。

その光っている時に精霊が爆発的に手から出ている。

何じゃこりゃ？憤怒の炎の精霊バージョン？火の精霊の親戚かな？

憤怒「うおおい！！！！！！てめえが主かあ！！！！！！」。

ぬおっ！！いきなり何処から声が！！！！幽霊か？！！！！！！

憤怒「誰が幽霊だ！！！！俺は憤怒の精霊だ！！！！もう一度聞  
く俺の主はてめえか！！！！」

口の悪い精霊だなあ、そして声もデカイ。そしてウザい。

憤怒「聞いてんのかあ！！！！うお おお おお おい！！！！！！」

XAN「黙れ！！！！ドカスがあああああああああ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

おっとあまりにもウザすぎて大声出しちゃった。

XAN「……てめえ、何のようだ……」



憤怒『急に大声出すなよ!!お前は俺を生んだのかって聞いてんだよ!!!!!!』

生み出した？ああ憤怒の炎の時みたいに俺の手から出てたしな。

XAN「……ああ、俺がお前を生み出した……」

憤怒「それならさっさと契約だ！！早くしろ！！こっちは時間が迫ってるんだ！！！！」

いちいち癪に障る奴だ。

XAN「……なぜ今頃出てきた、もっと早く出てこれたはずだが……」

憤怒「お前が俺たちの存在を正確に認知しなかったからだろうがああああああ！！！！」

さっさと認知して俺と契約しろおおおおおお  
 おおー！！！！！！！！

XAN「……………分かった、では始めようか……………」

憤怒『俺らに名前を付けろ！！！！それだけでいい！！！！早くしてくれ！！！！』

名前か考えどころだな、憤怒だからラースか？それともサタン？もしくはウルフ？

憤怒『あまり長く考えるな！！！！早くしないと消えちまうんだよ！！！！！！』

XAN「・・・ではウェルシュでどうだ、憤怒を表す生物はドラゴン、その上位種の名だ・・・」

憤怒『ウェルシュだな！！！！よし契約成功だ！！！！！！これで消えなくて済む！！！！』

XAN「・・・それは良かったな、そしてお前はいつたい何者だ、ウェルシュ。」

ウェル『だから俺は憤怒の精霊ウェルシュだ。お前の憤怒の炎のおかげで俺は生まれた。』

XAN「・・・ほう・・・で、お前は火の精霊と何が違うんだ？  
見た目同じだろ・・・」

ウエル『俺らをそこらの雑魚供と一緒にすんじゃねえ。俺はあいつ  
等より遥かに格上だ。』

まず第一に俺は火の精霊より火力が違う、彼奴らが千人で  
出せる炎を俺は一人で出せる。

そして次に速効性だ、俺らはお前が命じれば即座に燃えた  
り爆発する。

おまけに連鎖能力、俺らは他の憤怒の精霊が爆発すると  
より強く爆発する。

連鎖のようにズガガガガガン！！！！！！つぽく。後  
それと同じように燃える。』

XAN「・・・ふむ、それはすごいな。では『爆発しろ』」

ウエル『え？なんだ「チュドーーーーン」グハアアアアアア  
アアア！！！！！！！！！！』

XAN「ハッハッハッハッハッハッハッハッハ！！！！！！！！！！  
『爆発』『爆発』『爆発』」

ドゴオオオオオオオ！！！！！！！！！！チュドオオオオオオオオオ  
オオ！！！！！！！！！！





## オリ魔法を作ろう！〜広範囲殲滅魔法〜（後書き）

‘ポッポ’様意見を授けてくださりありがとうございます。  
今回オリキャラが出てきましたその設定を書きました

ウェルシュ

憤怒の精霊の集合体

モデル・スクアールにしようと思ったのに途中からわけわからなくなっ  
た。

特徴・スクアールが朱くなり常に怒りの表情を浮かべている。

意外と強く、XANXUSの練習相手にもなる。

名前の由来

憤怒ードラゴンー朱い竜ーア・ドライグ・ゴッホーウェルシュドラ  
ゴン

## いちやいちやしてきたので設定1

名前 ザンザス  
XANXUS

年齢 十二歳（今の時点で）

身長 159？

体重 47？

性格 何かの補正で寡黙になる、漫画とは違い自分以外をカスだと思っていない。

外見 XANXUSのまんま。

武器 二丁拳銃（名前募集中）ボンゴレ七代目施用、死ぬ気弾無限。

杖 ボンゴレリング（大空）、予備としてnewヴァリアーリング（大空）、憤怒のリング（嵐）。

メイジランク 火 トライアングルの上、もう少しでスクエア

水 ラインの上

土 ようやくドット

風 トライアングルの中

精霊魔法 火と風と憤怒しか契約できない。

精神力 スクエアメイジの数十倍、まだまだ上昇中・・・

回復力 寝ればたいていの怪我が治り、精神力は半分以上回復する。

詠唱 以前と変わらず、トライアングルスペルを二秒で詠唱可能。

使える魔法

火 ファイアーボール 連射可能、三十発は連射できる。威力はあまりない

火 火 フレイムボール 連射可能、二十発は連射できる。威力、地面が吹っ飛ぶ。

火 火 火 フレイムブラスト 火炎放射、射程10m。威力フレイムボールの五倍

火 火 ファイアーウォール 高さ10m、幅10m、厚さ10m。

水 コンデンスেশョン 以前と変わらない……

水 ヒーリング 以前の十倍効く。

水 水 アクアウォール 高さ5メートル、幅5メートル、厚さ2メートル。

風 ウインド 依然と変わらない……

風 風 エアハンマー 以前より発動が速くなった。

風 風 エアスピアー 以前より貫通力が増した。



風風 エアカッター 岩でも切れる威力。

風風風 カッターウインド エアカッターとエアスピアーとエアハンマーを合わせた威力

火火風 フレイムウインド フレイムブラストの威力より少し下だが広範囲に攻撃ができる。

火火水 ホットスチーム 逃走用、煙の量が多くなっている。

水水風 ウィンディ・アイシクル タバサのより劣る。

火火風＋精霊火 鳳凰天駆 鳳凰のように天を駆け巡る・・・

精霊憤怒＋憤怒＋憤怒＋憤怒 ニトロ・チェーン 連鎖爆発を引き起こす。

能力

憤怒の炎 以前より熱量、炎圧が爆発的に上昇。銃の腕はプロ顔負けになって来てる。

超直感 半径三キロ以内の事ならほとんど分かる、自分に危機が訪れると自動で発動する。

究極の眼 以前より鮮明に見え、1000メートル先まで見通せる。見切りがさらに鋭くなった

リング 出せる炎の量が上昇。

匣 まだ使ってない……。一つは近日使用する。

技

スコッピオ・ディーラ  
怒りの暴発

憤怒の炎を連射することにより超極太のレーザーを発射する。  
威力はフネに穴を開け、そのまま貫く程度。  
これは完璧に使え、十八番になっている

マルテロー・ディ・フィアンマ  
炎の鉄槌

憤怒の炎を連射することにより炎を扇状に直線に放ち攻撃する  
威力は怒りの暴発の1/5倍  
これは完璧とは言えないが使える。

ボッチョーロ・ディ・フィアンマ  
炎の薔

対象の周囲を高速起動しながら憤怒の炎を連射する。  
ただ今練習中

コルボ・ダッデオ  
決別の一撃

憤怒の炎をありったけ込めた巨大な塊を発射し、着弾時に半端ない威力の爆発が起こる。

威力は未完成の状態で船を消し炭に変える。  
ただ今練習中

零地点突破、改、

沢田綱吉が編み出した技、修行により使えるようになった。  
原作では炎だがここでは魔法を吸い取り自分の魔力とする。  
完全に使いこなせる。

ファイアーラース

ファイアーボールに憤怒の炎が混じった魔法。  
その威力はファイアーボールの数十倍。

フレイムラース

フレイムボールに憤怒の炎が混じった魔法  
その威力はフレイムボールの数十倍。

いぢやいぢやしてきたので設定1（後書き）

拳銃の名前を募集しています。

あと魔法もまだまだ募集中です。

少し修正を加えます。

アルピオンでのクエスト～亜人を殲滅せよ～

オスマンの俺の息子になれえ！！発言から四年が過ぎた……

前回と前々回でオリ魔法を完成させた俺は今森の奥深くに潜入しオーク鬼を探している。

何故探してるのかというと生活必需品が欲しくなったからだ。

森の中でも生活ができるけど、偶に生活必需品が欲しくなる。

だが俺が一文無し、そこで村の人たちからのクエスト（お願い）を受け、金を稼ごうと思う。

最初の依頼はオーク鬼の殲滅（殲滅と書いて討伐と読む）、どこにでもいるなオーク鬼は。

せいぜい十匹ぐらいしかいない群れを殲滅することなど十二歳になった俺には朝飯前だ。

設定1にも十二歳って書いてあるし、それ相応に実力もあるし。

ウエル『何メタ発言してんだよ、良いからさっさと探せ。』

XAN「……黙れ、カス霊……………」

はいはい探してるよ、お前も分裂したりして探し回れよ。

XAN「……お前は分裂できるだろ……その方が効率がいい……やれ……」

ウエル『分裂は疲れるから嫌だ、何より面倒くせえ、二ートになりたい。』

XAN「スコッピオ・ディーラ怒りの暴発」

ズガガガガガガッガガガガガン!!!!!!!!!!!!!!

ウエル『グハ————!!!!!!!!!!!!!!』

ダメだこいつ、早く何とかしないと……

ウエル『うゝおゝい!!!!!!!!!!オーク鬼がいたぞお!!』

回復が早いな……それじゃ殲滅しますか……

[illegible]

XANZUSはオーク鬼の群れの前に立ち魔法を放った。

「フレイムラーズ」

一メートル級の火の玉がオーク鬼の群れの真ん中に着弾する。そして……

ドカーン!!!!!!!!!!!!

大爆発が起き火柱ができる、爆発だけで半数のオーク鬼が消し飛んだ。

残りの半分のオーク鬼は腕の半分が吹っ飛んでいたり、脚がこんがり焼かれていたりする。

そしてXANXUSが次の魔法を唱えた。

「フレイムブラスト！！！！」

XANXUSSUの手のひらから、業火が出てオーク鬼達を焼く。

「プギイイイイイイイイイイ！……！！！！！！！」

オーク鬼達は業火にさらされ断末魔を上げ絶命していった。

XANXUSがオーク鬼の群れを殲滅するのには五分もかからなかった……

「カスどもめ……」

XANXUSがそう言い捨てその場から去ろうとする。だがその時

「キシヤアアアアアアアア！！！！！！！！！！」

「何だっ！！！！！！」

突如空からワイバーンが襲いかかってきた。

ワイバーンは鋭い爪をXANXUSに向けて振り下ろす。

「くっ！ドカスが！！！！！！」

XANXUSは間一髪で爪を避ける、XANXUSのいた場所には  
 挟られたような跡が残っていた。

「クッココッッコッ  
クッコッ!  
クッコッ!  
クッコッ!  
クッコッ!  
クッコッ!  
クッコッ!  
クッコッ!  
クッコッ!  
クッコッ!

そしてワイバーンはXANXUSに向かって突進を繰り返した。

XANXUSはそれを銃で迎え撃つ！

スコッピオ・ディーラ  
「消し飛べ……!! 怒りの暴発!!!!!!」



ズガガガガッガガガガガンン!!!!!!!!!!!!!!

「ギャゲエエエエエゲエエエエエエ!!!!!!!!!!!!!!」

炎のレーザーがワイバーンの胴体に直撃しワイバーンは空に吹っ飛ばされる。

そしてXANXUSが追い打ちをかける。

「『鳳凰天駆』!!!!!!!!」

XANXUSが炎を纏い不死鳥のように空を駆け巡る。

腹に大怪我を負ったワイバーンは戦線離脱を試みるが、

それは追ってくるXANXUSによって阻止される。

そしてワイバーンは自棄になりXANXUSへ突っ込んでいった。

XANXUSはそれを極大の炎を纏い迎え撃つ。

「ギャギャギャッガッギャギャガッガア!!!!!!!!!!!!!!」

「!!」

「ドカスがつ!!!!!!!!!!墮ちろお!!!!!!!!!!」

『緋凰絶炎衝』

ドゴオオオオオオオン!!!!!!!!!!!!!!

!!!!!!!!!!

その日一番の大爆発が鳴り響いた後立っていたのはXANXUSだった。

[illegible]

俺は今現在 my home へ向かっている、もう深夜だ……

俺はオーク鬼の群れとおまけにワイバーンを討伐した。

いやほんとマジ焦った、あそこでワイバーンが出てくるなんてねえ、  
思いもなかったよ。

そして村からの報酬は20エキュールだけだった。

・・・ワイバーンを狩ったのになくねえか？

まあ乱入クエストみたいなもんだつたし、実戦経験を得られたからチャラかな・・・

あ、後火のランクがスクエアになったよ。

そうこう言っている内に my home に帰り着いた。

え？木の上とかで寝泊まりしてるんじゃないかって？

ノーノー違いマース！ちゃんとした家に居ます。

神様がくれた匣の中の一つが家になったノデース！！

その名は「匣庭」、高さ10m、横10m、奥行き10メートルの立方体の家、全属性の炎で起動可能。

晴れの炎を注入した場合はその中に入っていると細胞が活性化し美容効果や怪我が早く治る。

雨の炎を注入した場合は鎮静効果があり痛みが和らぐ。

嵐の炎を注入した場合は家の壁に嵐の炎がコーティングされ、触れたものを分解させる。

雷の炎を注入した場合は壁が滅茶苦茶硬くなる。

雲の炎を注入した場合は部屋の数がどんどん増殖する。

霧の炎を注入した場合はその周辺に幻覚を掛け家に近づけないようにする。

そして大空の炎を注入した場合は家の中が超快適空間になる、

これは外が暑かろうが寒かろうが家の中では快適な空間になるのだ！！！！

俺の場合憤怒の炎を注入しているから大空と嵐の炎が注入されどちらの効果も得られるようになる！

俺の家は俺と人間以外の生き物が入ろうとすると嵐の炎がその身を分解する、

そして尚且つ家の中は超快適空間！！！！

欠点は一日に一回は炎を注入することだけだね・・・

それじゃ家の中に入ろうとするか・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・あれ誰が入った跡があるぞ・・・

空き巣か？！！とつちめてカツつつつ消す！！！！！！！！

俺は賊に気づかれないように忍び足で家の中に入る・・・・・・・・

どうやら足跡は寝室に続いている・・・・・・・・

そして犯人は俺のベットの中で爆睡してやがる！！！！それも二人！！！！

怒り俺は犯人の顔を見ようと布団にゆっくり近づく・・・・・・・・

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

[illegible]

ここ俺んちだよなと思い一回家に出てみる。

・  
・  
・  
確かに俺ちだ  
・  
・  
・  
・  
・  
・

もう一回顔を見る・・・結構かわいい・・・はっ！！何も言  
ってるんだ俺は！！！！

とりあえず起きてから話を聞か……俺は何処で寝ればいいんだ……

ウェル「床じゃね？」

XAN「黙れ」

アルピオンでのクエスト「亜人を殲滅せよ」（後書き）

銃の名前の募集は候補が上がってきたので中止となります。  
魔法はまだまだ募集中です。

俺はロリコンではない……………そう信じたい……………（前書き）

主人公の原作知識はほぼ皆無です。

覚えてるのは戦争ぐらいです。

ちなみに主人公は精霊と念話で話ができます。

俺はロリコンではない……そう信じたい……

前回自分の家に帰った俺は何故か俺のベッドで寝ていた少女二人に  
度肝を抜かされた……

さてこの少女二人組どうしよう

1・シカト

2・襲う

3・たたき起こす

4・起きるまで待つ

5・決別の一撃で消し飛ばす。  
コルボ・タッデオ

……さすがに2と5はダメだろう……やった場合スゲー批判  
が来るだろう……

第一俺はロリコンじゃねえ……と信じたい……

3はなんかちょっと良心に引っかかるな、第一俺は紳士だ。

変態と言つ名の紳士ではない!!!

1のシカトはちょっとねえ……



結果的に4の起きるまで待つということにしよう・・・

ウエル『ヘタレめ、襲っちまえ』

黙れカス霊！変態かお前は！！！

ウエル『俺は変態じゃねえ、・・・・おいこの金髪人間じゃねえぞ。』

はあ？人間じゃねえ？どういう意味だ？？

ウエル『こいつから精霊の気配が出ているんだ、第一こいつ耳がなげえぞ。』

耳が長いってエルフか？！あれ・・・金髪・・・エルフ・・・アルビオン・・・・！分かった！！

ウエル『何が分かったんだ？』

ティファニアだ！！アルビオンの虚無！モード大公とエルフの間にできた娘！！

ウエル『へ〜〜このチンチクリンがねえ・・・』

何故ここで原作キャラが・・・あ、あれかサウスゴータ家が没落したのか・・・

ということは隣にいるのはマチルダか・・・俺と同じくらいの年だな・・・

確かあの後はウエストウッド村に行くんだったような・・・

ウエストウッド村って俺がクエスト（依頼）を受けた村だな、

そっぴゃあそこにはガキとほぼ死ぬ間際の爺ぐらいしかいなかったが。

その途中で疲れ果ててそこに偶然俺の家があり寝ていたと・・・

ウエル『こいつらもなかなか面白れえ人生を送ってんだな。』

面白いってお前・・・

ウエルシュの性格がよく分からない・・・

まあこいつらが起きるまで修行でもしてつかなく〜おいカス霊手伝え。



オオオオオオオオ!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

XAN「フハハハハハハハハハハ!!!!!!!!!!避けつつける!!!!!!!!!!  
ファイアーボール!!!!フレイムボール!!!!フレイムブラ  
スト!!!!!!!!!!」

XANXUSの手から火の玉と焰が発射される。

ウエル『避ける!!!避ける!!!避ける!!!!!避けるうつつう  
!!!!!!!!!!!!!!!!!!』

だがそれをウエルシュが避け続ける。

XAN「クカカカカカカカカ!!!!!!!!!!!!フレイムウインド  
!!!!!!!!!!!!!!!!!!  
エアカッター!!!!エアハンマー!!!!エアスパア!!!!カッ  
ターウインド!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

今度は熱風と風の鎚と刃と針と刃風がウエルシュに向かって放たれ  
る。

ウエルシュ『ウオオオオ!!!!!!!!!!!!避ける!!!!!!避ける!!!!!!サ  
ケルウウウウ!!!!!!!!!!!!!!!!!!』

ウエルシュは不可視の風を完璧に避ける。

XAN「火火火火のスクエアスペル！！！！！！レヴァンティン！  
！！！！！！」

XANXUSが新しいスペルを唱える。

それは二つ首を持つ炎の竜となりウエルシュに襲いかかる。

ウエルシュ「ウオオオオオオオ！！！！！！・・・あれ俺は今  
まで・・・・・・・・」

ここで死ぬ気弾の効力が消える。

そしてレヴァンティンは止まっているウエルシュに直撃する

ウエルシュ「ってギャアアアアアアアアアア！！！！！！！！  
！！！！！！」

ウエルシュは断末魔の声を上げながら燃えて行った…………









1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

朝食が完成した。

なお調理風景は全くのでまかせだ、作者がノリでやった。

朝食の献立はパンと温かいスープとこんがり肉だ。

こんがり肉はモンハンのサイズと同じだ、肉はワイバーンの肉だが。

さて食べるとするか・・・むしゃムシャバクバクゴクン！！・・・  
 ・・・ピーーン！！！！

精霊の気まぐれスキルを得た！体力とスタミナと防御力が上がった

「ウェル、何を詰まらんことをやっている、あいつらが起きそうだぞ。」

え、マジで?! 早く言えやカス霊!

「ウエル、教えたのにその言いぐさは無いだろう……」

凹むな!! うっとおしい!!

「????? あの~~~~~」

XAN「アッ」

「???? ヒッツ!!!!!!」

あ、やべ怖がらせてしまった・・・今度は微笑みながら・・・

XAN「や、やあ・・・」

「???? ふゝゝゝん!!!!!!」

これは不味い・・・俺の顔がマフィアだってこと忘れてた・・・

「???? テファに何してんだいつ!!!!!!」

ガン!!!!!!

俺の頭に思いつきり蹴りが決まった・・・糞痛てえ・・・

XAN「・・・・・・・・アァン!!!!」

???「ふええええええん!!!!!!」

???「怖くなんかないんだからね!!!!ほんとだからね!!!!」  
ガタガタブルブル」

何この混沌<sup>カオス</sup>、ウェルシュどうしてこうなった・・・

ウェル『リア充、爆発しろ、もげろ』

どうしてこうなった・・・・・・・・・・



俺はロリコンではない……そう信じた………（後書き）

魔法の募集は続いています。

多少時間軸がおかしいところが有ったので直しました。

## ティファニア&マチルダとの接触（前書き）

結構難産でした・・・

年齢を乗せると・・・

XANXUS十二才

マチルダ十一歳

ティファニア六歳です・・・

そして今回は超超超ご都合主義です。

## ティファニア&マチルダとの接触

前回俺はマチルダとティファニアを泣かせた、今ようやく泣き止んだ。

マチルダは泣きやんだが、ティファニアは震えてる・・・俺の顔が原因か・・・

XAN「・・・何故お前らは俺の家に居た？・・・」

マチルダ「・・・森を歩いて・・・疲れちゃったから・・・  
そのお・・・」

XAN「・・・俺の家で休んでいてそのまま寝たと・・・」

マチルダ「はい・・・そうです・・・ごめんなさい・・・うう・・・」

やべえまたおれ泣かしそうじゃん。

XAN「・・・で、お前らは何処から来たんだ？・・・」

・  
」

マチルダ「えつと．．．そのお．．．この付近の村．．．」

XAN「．．．．．嘘だな．．．この付近の村にお前みたいなのは居ない．．．．．」

マチルダ「ううう．．．．．わ、私は．．．．．」

XAN「．．．．．私は．．．．．なんだ？．．．．．」

マチルダ「私は貴族よ！！！！それもこの付近を治めるサウスゴード家の長女よ！！！！」

私はラインメイジだ！！私たちに手を出すと酷い目にあうわよ！！！！！！！！！！」

杖を出して胸を張りながらそうマチルダは言い放った。

．．．迫力を出して言っているつもりなんだろうが最後の方震えていたし身体もがくがく震えてるし。

はつきり言って全く怖くもなにもない、むしろ可愛い。そして俺はスクエアメイジ。



XAN「……別に怖くもなんともないんだが……」

マチルダ「うううううう……ヒックヒック……」

やべまた泣かしちまった、誰か泣かさずに人と話せる方法はないのか……！

XAN「……泣くな、泣くな、俺が気まづくなる……」

テファ「マチルダお姉ちゃんを泣かさないで……！！うええええええん……！！……！！……！！……！！」

マチルダ「……！！テファを泣かせるな……！！ふええええええん……！！……！！……！！……！！」

二人とも泣きながら怒ってる、そしてお互いを庇いあっている。

何とも美しい姉妹愛なこと……虚しくなってくる……

なあウエルシュ、お前ならこの状況をどうする……

ウエル『笑えばいいよ……笑えば……』

XAN「.....ニゴッ.....」

「びえええええええええんんん！！！！！」

笑つても泣くぞ．．．

ウェル「頑張れ、XANXUS超頑張れ……」

[illegible]

「……何回泣けば気が収まるんだ……お前らは……」

マチルダ「うう……恥ずかしい所を見せちまったねえ……」

テファ「ごめんなさい……うう……」

数十分後俺があの手この手を使いようやく泣き止ませた．．．

あのカス霊．．．後で決別の一撃<sup>コルボ・ダッディオ</sup>数連発の刑だな．．．

XAN「．．．．．で、お前らの名前は何だ？そして何処から来た？．．．」

マチルダ「．．．私の名前はマチルダ、土のラインメイジだ．．．」

テファ「．．．ティファニア．．．」

マチルダとティファニアか、予想通りだな。

XAN「．．．．．で何処から来た？．．．」

マチルダ「．．．．．絶対言わなくちゃダメかい？．．．」

XAN「．．．．．話したくないならそれで良い．．．」

マチルダ「ありがとう、助かるよ．．．それでちょっといいかい？」

XAN「・・・・・・・・何だ？・・・・・・・・」

マチルダ「あたし達の事を話したんだからさぁ・・・名前とかを覚えてくれないかい？・・・」

XAN「・・・自己紹介がまだだったな・・・俺はXANXUS。ザンザス

火のスクエアメイジだ、この森で修行をしている・・・・・・・・  
・・」

マチルダ「スクエアメイジ・・・まさか貴族かいつ！！！」

XAN「・・・貴族ではない、唯の平民メイジだ・・・・・・・・」

マチルダ「平民メイジでスクエアかい・・・どんだけ才能を持っているんだよ・・・・・・・・」

XAN「・・・死ぬほど修行をしたからな・・・ところでお前、ティファニアと言ったな・・・・・・・・」

ティファ「ふえ！！・・・な、なんでしょうか？・・・・・・・・」

XAN「…………お前、エルフだろ…………」

テファ「え、何でそれを…………あ！」

マチルダ「っ！！！！逃げなテファ！！！！こいつはあたしが…………」

臨戦態勢じゃないか、マチルダ。別に捕って食おうとしないって…………

XAN「…………騒ぐな…………別に前がエルフだろうと俺は差別はしない…………」

マチルダ「……………本当かい……………」

XAN「……………本当だ…………始祖に誓う……………」

マチルダ「……………分かった、信じるよ、どうせあんたには勝てないね。

でも何でテファがエルフだって分かった？フードはとって見せてないけど……………」

XAN「簡単なことだ・・・ウエルシュ出てこい！！！」

ウエルシュ『呼ばれて飛び出てじゃじゃじゃのじゃ～～ん、って何を言わせる！！！！』

XAN「・・・・・・お前が勝手に言ったんだろ・・・どうした固まって？・・・・」

二人ともウエルシュが出てきて固まっている・・・

マチルダはともかくテファはそうでもないだろうに・・・・・・

XAN「・・・・何を啞然としている・・・・マチルダはともかくティファニアは見慣れているだろう」

テファ「いえ・・・・こんな精霊見たことがなかったので・・・・」

マチルダ「何だい此奴は・・・・・・精霊？水の精霊みたいなもんかい？」

XAN「・・・・まあそんなところだ・・・・こいつは俺が契約精霊だ。  
した<sub>がえてる</sub>・・・・俺は精霊が見え、そして契約できる・・・・」

・・・ティファニアからは精霊の気配が感じられた・・・  
エルフと同格ぐらいに・・・」

マチルダ「なるほどそういう事かい、エルフより精霊が使えるばエルフなんて怖くないからね。

でもテファはエルフじゃなくてハーフエルフなんだ・・・  
そのせいで城から追われ・・・」

XAN「・・・なるほど・・・大方何処かの貴族がエルフを妾にしそれがばれて・・・

追われの身になったか・・・随分と大変な目にあつたのだな・・・」

マチルダ「ああそうだよその通りだ・・・なあウエストウッド村でもエルフの事は知られてるのか？」

XAN「・・・あまり知られてない・・・なにせド田舎だから・・・」

マチルダ「そうかい・・・なら良いんだ・・・」

XAN「・・・それでお前らはどうする？・・・あの村に住むのか？・・・

あの村はもうじき無くなる・・・あそこには子供と病気の

爺ぐらいしかいないからな・・・」

マチルダ「テファはあそこに住まわすよ・・・」

XAN「・・・お前はどつする？・・・」

マチルダ「あたしは盗賊にでもなつてテファの生活費を稼ぐよ・・・」

テファ「お姉ちゃん！！そんなことしちゃダメだよ！！一緒に暮らそうよ！！！！」

XAN「・・・俺もそれには反対だな・・・」

マチルダ「だって・・・だってそうするしか手段はないんだよ！！！！」  
そうするしかテファは・・・」

テファ「マチルダお姉ちゃん・・・」

XAN「・・・俺はトリスティンに知人がいる・・・  
俺がその人に頼んでその人の養子になるという方法もある・



・俺もその人の養子だがな・・・」

その人とはオールド・オスマンである。

マチルダ「・・・そうしたいのはありがたいんだけど・・・でも無理だ・・・」

テファの耳をどうにかしないと・・・何処へ行ってもそれで台無しになる・・・」

テファ「ううう・・・・・・」

耳ねえ・・・確かにそれは目立つ・・・

何とかならないものかな・・・調和の炎と分解の炎を使えば何とかなるか?!!

XAN「・・・一つだけ・・・方法がある・・・」

テファ「え?!!!!!!本当!!!!!!」

マチルダ「!!!!どんな方法だい!!!!」

XAN「……だがこの方法は成功するかどうか分からない・  
・それでもやるか?……」

マチルダ「それでも!!!テファが苦しめられずに済むなら!!!!!!  
」

テファ「お願いします!!!その方法を教えてください!!!!!!」

そこまで言われちゃ断れないな……

XAN「……分かった……その方法は俺の調和の炎と分解の炎を  
使う……」

テファ「調和?分解?」

マチルダ「炎でどうするんだい?!?!」

俺の作戦では分解の炎でエルフの遺伝子情報を耳のみ分解し、

その後調和の炎で分解した分を調和させるといふ荒業だ。

XAN「……俺の魔法を使い……ティファニアの耳の遺伝子情







## ティファニア&マチルダとの接触（後書き）

グダグダですね、今回。

このような駄文を見ていただき誠にありがとうございます。

魔法も感想もどんどん下さい、批判は少し勘弁してください。

## 日常編

前回ティファニアの耳を元に戻した俺は、現在魔法の修行中だ！

前まではカス<sup>ウェルシュ</sup>霊を的にした修行だったが今は違う！

何故ならば何故か家に住み着いたティファニアとマチルダが居るからである！！

何故住み着いているのか理由を聞くと・・・

マチルダ「べ、別に好きで住んでるわけじゃないからね！！

唯行くところがないから仕方なく住んでるだけだからね

！！！！」

テファ「一緒に居ちゃ嫌なの・・・・・・・・・・・???（涙）」

てな感じ、涙目のテファが可愛すぎて死ねる。

今日はマチルダと一緒に土の魔法の修行をしている。

マチルダのランクは土のトライアングルだ、そして水のラインである。

俺がマチルダに土の魔法を教えて貰っているが、何か物足りない。

ブレットとかアースハンドをやる前に拳銃ぶっ放した方が相手を倒すのが早い。

ちなみに拳銃の名前が決まった、  
ince and ambizio

意味は激昂と野望だ、送ってくれた、星屑、様まことにありがとうございます。

ウェル「お前、誰に向かって礼を言っているんだ？」

黙れ、  
ドカスが。

まあマチルダからは鍊金と固定化を習っている、これがあればだいたい金は稼げる。

クリエイトゴーレムはやらない、何故なら細かい操作ができないからだ。

マチルダ「ほら！　っとしてないで早く鍊金！！」

怒られた、だが怒った顔も可愛い……はっ！！！！

煩惱退散煩惱退散煩惱退散煩惱退散煩惱退散  
煩惱退散煩惱退散煩惱退散煩惱退散煩惱退散  
煩惱退散煩惱退散煩惱退散煩惱退散煩惱退散  
煩惱退散煩惱退散煩惱退散煩惱退散煩惱退散





XANは経験値が20上がった！！

XANはレベルアップした！！

XANはちからが50上がった！！

XANはまもりが50上がった！！

XANははやさが50上がった！！

XANは錬金の技術レベルが1上がった！！

XANは錬金で青銅を作れるようになった！！

鍊金以外は真つ赤な嘘です。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

俺は今、今日の晩御飯を捕りに森の奥深くに来ている。

前まではたった一人の食料を取ればいいのだが、今は養うべき人<sup>マチルダとテフ</sup>がいる。

なので三人分の食料がいることになる。

一人の時は修行中に襲いかかる猛獣を食べれば良かった、味は糞不味

いけど。

そしてあいつ等はグルメだ、ネズミやカエルを食べようとしないう、俺は食うぞ俺は。

なのでわざわざ森の奥深くに住んでいる鹿を狩りに来た。

鹿と言ってもあれだぞ、もののけ姫に出てくる主人公が乗っていた鹿っぽい生き物（名前忘れた）。

彼奴は面倒くさい、無駄に速いし、ジャンプすると高く飛ぶし、魔法も放ってくるし・・・

とにかく面倒くさい、さつさと・・・・・・発見

・気づかれないように・・・ソローーーーーリ、ソローーーーーリ・・・

俺は蛇男・・・・・・

ソローーーーーリ

気配をけし・・・・・・

――リ

獲物を捕らえ・・・

じつくりと・・・

――リ

尚且つの確に・・・

――――リ

打ち殺す!!!!

バッキューン!!!!!!!!!!!!

ソロー

ソロー――リ

ソロー――

ソロー

•

:

- 
- 
- 

- 
- 
- 
- 

- 
- 
- 
- 
- 

•  
•  
•  
•  
•  
•

- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 

- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 

任務成功

俺は鹿擬きを狩った！！！！

クエスト成功!!!

報酬はテファとマチルダの笑顔！！

い  
わ  
い  
る  
プ  
ラ  
イ  
ス  
レ  
ス  
！  
！  
！  
！

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

結構デカいなこの鹿擬き・・・さっさと帰るか・・・

‘と彼はこの時自分は家に帰れると思っていたんだ・・・’

ん？あのデカいのはなんだ？近づいてみよう・・・

‘彼は信じていた、温かい家族が待っている場所へ帰れることを・・・！！！！！！’

うわキモ、なんだあの人面鹿・・・あれもののけ姫でこんない  
なかつたけ？

‘彼は・・・奴に・・・奴に・・・！！！！！！！！’

うわこっち見てるし、あれこっちにドンドン向かって……？

ズドン！！！！！！！！！！！！！！！！

‘そこからは誰も見ていなかった．．．．．’

‘そしてその地には腹に穴が開いた鹿を背負う霊が居ると伝えられ  
た……’

「なお今でもそこには誰一人近づかない……」

[illegible]

マチルダ「ウワァアアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！」

103







## 日常編（後書き）

魔法はまだまだ募集中です。

オリ魔法を作ろう！〜暗殺兼奇襲魔法〜（前書き）

遅れてすみません・・・

オリ魔法を作ろう！　暗殺兼奇襲魔法

前に俺はオリ魔法を二つ作った。

一つは「高速機動魔法」『鳳凰天駆』、火火風＋精霊・火のトライアングルスぺルだ。

この魔法は炎を纏い空を高速で機動する魔法。

そして炎をさらに纏い攻撃する緋凰絶炎衝というコンボ技も持つ。

テファとマチルダに見せたら・・・

テファ「すごーい！！とっても綺麗だよ！！！」

マチルダ「なんだいあの出鱈目な魔法は！！で、でも綺麗だったよ・・・」

二人とも綺麗だと褒めてくれた。流石見る目あるなあ～～～。

この魔法はスクエアメイジになってからさらにチートになった。

火火風＋精霊・火＋精霊・憤怒Ⅱと言う風な組み合わせになり、

威力、火力、スピード、機動性、消費魔力が爆発的に上がった。

うん、あれは無い、本気のスピードが音の壁を越えた、即ち最高速度が音速以上となった。

そしてさらに二丁拳銃を使いマンガみたいに加速も出来た、やった吐いた……

こうして『鳳凰天駆』はさらにpower upした。

もう一つは『広範囲殲滅魔法』『ニトロチェーン』、精霊・憤怒？4の精霊スクエアスベルだ。

この魔法は大気中に憤怒の精霊……即ちカス<sup>ウェルシユ</sup>霊の分体の塊をばら撒く。

そして複数箇所<sup>に</sup>精霊の塊を集め爆発させる。

この魔法が怖いのは一つの箇所が爆発したら、その近くにある箇所が前の爆発より大きく爆発する。

それは術者が止めない限り永遠に続き爆発の度に強く熱く大きく爆発する。

ぶっちゃけ鋼の錬金術師のロイ・マスタング大佐の焰の錬金術と同じである。

相違点は連鎖性ぐらいしかない、ちなみに周囲に湿気があると使えない。

この魔法はマチルダにしか見せてない、テファには教育上宜しくない。

マチルダ「……………あんたって本当に人間??？」

人外判定をもらってしまった…………

この魔法は俺がスクエアメイジになりさらに広範囲に爆発を生み出せるようになった。

ええ、爆撃みたいになりましたよ、ロイが人間兵器だということも納得しました。

だがこの二つの魔法には共通する欠点があります…………それは……………！！！！

目立つ……………！！！！！！！！何故なら自重が無いから……………！！！！！！！！

『鳳凰天駆』 『ニトロ・チェーン』 この二つの魔法は目立ちまくる。

『鳳凰天駆』 なんかは飛んでいるとすぐ分かる、夜でも分かる、燃えてるから。

将来汚い仕事をやる時にド派手な魔法しかないってのはちょっとなあ…………。

だから今回は目立たない魔法を作りたいと思う。

ふむ・・・まずは目立たない・・・見えない・・・不可視・

• • • • • 原子 • • • • • 分子 • • • • • 氦体 • • • • • 氦体？

・  
・  
・  
気体かな？見えないし。

気体で毒と言えるものは、一酸化炭素、酸素、

・ ・ ・ ・ ・ 沢山あるな、何にしよう？

「ウェル、二つしか思いついてねえじゃん。」

默れ力ス靈。

此処は無難に毒ガスと行くかな・・・となると課題は無味無臭で不可視である。

マンガみたいに紫色をした毒ガスは俺は認めない！！あれってバレバレやん！！！！

よっしゃかもすぞぉ~~~~~. . . . . なんか違う. . .

[illegible]



- - - - -

「系統魔法で見えない魔法は．．．．．」

「スリープクラウド．．．主に風系かな．．．．．」

「系統魔法で毒の効果を持つ魔法は．．．．．」

「やはり水の系統魔法．．．．．となると水と風．．．だがそう  
なると氷．．．．．」

「．．．．．はっ！！！俺にはあれがあるじゃないか！！！俺に  
しかない俺だけのモノ！！！！」

「ふふふふふふふふふふふふふふ．．．．．こ  
れで．．．かつる！！！！」

「次は名前だな．．．．．毒．．．．．」

「思いつかねえ．．．一度試しにやるか．．．カス霊！！」

「あ？なんだよ．．．って！！まさか実験だ．．．．．」

「せいやあああ！！！！」

「ゴブゲゲドバアアアアアアア！！！！！！！！！てめ  
え．．．．．お．．．ぼえて．．．おけ．」

「はっはっはっはっはっは、成功だ。あれ、うわ、こっち  
．．．ぐぎゃあああああ！！！」

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

ヴボアアア・・・・毒を諸に喰らってしまった・・・・

だが魔法は完成した……さすが俺！

ヴェレーノ・ネツピア  
この魔法の名は毒霧。

火+水のラインスペルだ。

この魔法は眠りの霧のように霧を発生させる魔法だ。

だがその効果は眠りの霧とは天と地の差がある……

この魔法は単体では何の意味も持たないが、

俺の大空の炎と嵐の炎と組み合わせるとたちまち鬼畜魔法になる！

大空の炎を足すと、霧が当たった箇所が石になる。

これは皮膚を石にしている体の中などは石にはならない・・・直接当てなければ・・・

そして石になつたらその箇所はとても脆くなる。

力がほとんどないテファのパンチで碎けるほどの脆さだ。

森のオーク鬼に試してみたところ効果は上々だった。

腕が石になって自棄になり振り回し他のオーク鬼に当たり腕が碎けたり、

脚が石になって自身の体重に耐えきれなくなり脚が碎けたり、

地獄のようなありさまだった。

だがこれには欠点があり石化が五分ぐらいしか持たないことだ。

そして次に嵐の炎を足すと霧が当たった箇所が引き裂かれる。

これは皮膚がズタズタに引き裂かれていて致命傷にはならないが痛い、超痛い。

皮膚が無造作に引き裂かれて血がだらだら流れる、この絵柄は十八禁ものだ。

オーク鬼に試してみたところ効果はz(ry

そして大空と嵐の炎を足す事も出来るがこれはヤバイ。

なのでこれは後ほど紹介させてもらう。

これで暗殺兼奇襲魔法は完成だ、次は何の魔法を創ろうかな？



オリ魔法を作ろう！暗殺兼奇襲魔法（後書き）

‘蛟那’様意見を授けていただきありがとうございます。  
これからもオリ魔法を募集しています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5302z/>

---

憤怒の使い魔

2012年1月13日18時47分発行